

辛荷の島に過る時に、山部宿禰赤人の作る歌

一首 并せて短歌

九四二番

あぢさはふ 妹が目離れて してきたへの 枕もまかず 桜
皮巻き 作れる舟に ま梶貫き 我が漕ぎ来れば 淡路の
野島も過ぎ 印南つま 辛荷の島の 島の間ゆ 我家を見
れば 青山の そことも見えず 白雲も 千重になり来ぬ
漕ぎたむる 浦のことごと 行き隠る 島の崎々 隈も
置かず 思ひそ我が来る 旅の日長み

反歌三首

九四三番

玉藻刈る 辛荷の島に 島廻する 鶺にしもあれや 家
思はざらむ

九四四番

島隠り 我が漕ぎ来れば ともしかも 大和へ上る ま
熊野の舟

九四五番

風吹けば 波か立たむと さもらひに 都太の細江に
浦隠り居り